

# 西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ) リュウコクダイガク	フリガナ) ケイザイガクブ	フリガナ) ダテゼミナール
龍谷大学	経済学部	伊達ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ) ダテゼミナール	フリガナ) キムラマリナ	4	無
伊達ゼミナール	木村真吏奈		

## 研究テーマ（発表タイトル）

遠くに住む私たちは震災犠牲者に「共感」することができるのか

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要（目的・狙いなど）

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、大津波が、岩手県・宮城県・福島県の沿岸地域を襲った。警視庁によると、震災の死者、行方不明者、震災関連死を合わせると犠牲者は2万1千人を超えている。

1995年に発生した阪神淡路大震災においては、5年で仮設住宅が姿を消したが、東日本大震災においては、5年半経った現在でも、住宅再建が進まず、今なお大勢の方が仮設住宅での不自由な暮らしを余儀なくされている。2016年9月末時点での仮設住宅入居者数は、岩手県、宮城県、福島県の三県だけで44,267人にのぼる。

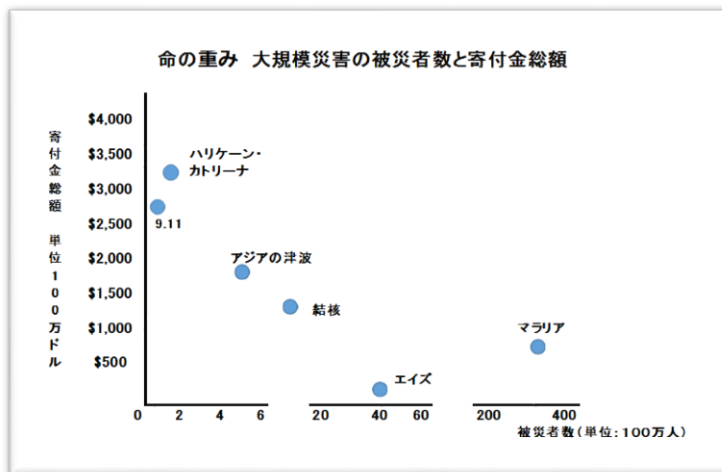
被災地から遠く離れて住む人びとにとって、「犠牲者21,000人」という統計的に表現された、失われた命の重さを想像することはとても難しい。また、仮設住宅入居者「44,267人」という統計数字から、生き残った被災者の苦しみを想像することも困難である。

人間一人ひとりの命の重さは同じはずであり、一人の死が悲劇であるならば、2万人の死はその2万倍の悲劇であるはずだ。しかしながら、私たち人間は、被災者一人ひとりの感情に触れる時にはそれに共感することができるのに、被害規模が大きくなるにつれて失われた命の重さを想像し、共感することが難しくなる。被災者たちのために行動を起こすことができない。被災地から遠く離れた地に住む私たちでも、大勢の震災犠牲者の感情に共感し行動するためには、いったいどうすればいいのだろうか。

そこで、助けとなっているのが経済学の父、アダム・スミスの『道徳感情論』である。『道徳感情論』を読む中で、行動経済学の二重過程システムに似た理論があることに気づいた。それを読み解くことが目的である。

### 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

命の重さを、ここでは寄付額と仮定する。すると、被災者数が多くなればなるほど、寄付金も多くなるはずである。しかし、実際には予想とは反対の結果となる。（右図：不合理だからうまくいく P.346）この図は、大規模災害の被災者数と寄付金総額をグラフに表したものである。この図より、被災者数が少ない方が、より寄付が多くなる集まることわかる。



このような状況を、シェリングは「顔のある犠牲者効果」と提唱した。「顔のある犠牲者効果」とは、私たちが、犠牲者について統計的な情報を与えられるよりも、特定のある個人の犠牲者のみに焦点を当てて犠牲者を表すこと

のほうにより共感し行動を起こす効果である。私たちは、被災規模が大きく被災地が遠いと、被災者や被災地のために共感し行動ができなくなる。

そこで、アダム・スミスは、『道徳感情論』において、大規模災害が起こったとき、人はどう行動するのかを取り扱っている。ここで作用するのが、胸中の「公平な観察者」である。胸中の「公平な観察者」は、自分が取るに足らない存在であると教えてくれて、利己心が犯しやすい偽りを正してくれる。これにより、遠くに住む我々は、再び被災者たちに『共感』することができるのである。

そして、第三者は当事者（被災者）の激情を抑えてくれる。その第三者は胸中に誰もが潜めている「公平な観察者」である。実際に被災された場所に行っている我々は被災者（道徳感情論では当事者）が平静を装っているということを感じる瞬間があった。そして、会話や交流をすることによって笑顔になる被災者に出会えた。そこで我々は心を落ち着かせることができる甚大な力なのだというアダム・スミスの言葉を信じて私たちは被災者の心の平安をもたらすために、合宿を続けている。

### 3. 研究テーマの課題

アダム・スミスの『道徳感情論』において、スミスは、人間の行動が、情動と胸中の公平な観察者との間の闘いによって決定されると主張した。また、スミスは、人々は胸中の公平な観察者によって、自分自身の行動を眺めることで、情動につき動かされる行動をくつがえすと信じている。しかしながら、スミスは、この公平な観察者が、かなり激しい情動によって、惑わされることも無力になってしまうことも認めている。このアダム・スミスの共感論は、行動経済学の二重理論システムに酷似していると我々は考えた。

二重理論システムにおいて、熟考システムは、情動システムによって形成された直観的判断を評価し修正する。それに対して、『道徳感情論』において、胸中の公平な観察者は、自分自身の行動を眺めることで、情動につき動かされる行動をくつがえすのだ。つまり、胸中の公平な観察者が熟考システム、情動が情動システムにあたる。そして二重過程システムについての先行研究を駆使して共感が可能であるのかを検討しようと思う。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

人間が生まれながらにして持つ思考は二つある。一つ目は直観的な思考システム（自動システム）は情動を基盤としている。本能的に感じた考えを素早く表す。二つ目は分析的・合理的な思考システム（熟考システム）は推論を基盤にしている。人は災害などの緊急時になると寄付を募ったり行動を起こしたりするが、慢性的な災害や被害には行動を起こしにくい。しかし、我々が二重過程論をうまく誘導できれば、世の中はより良い方向へ導けるのではないのかと考える。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

我々は、人間が命の価値をどのような状況で、どのくらい感じるのかどうかを検証するため、次のような過程を立て実験を行った。【仮定】 顔のある犠牲者と統計的犠牲者の両方を示したとき、熟考システムによって、情動システムを修正し、統計的犠牲者のみ示したときよりも寄付金を増やす。

被験者に簡単なアンケートに答えてもらい、500円の報酬を渡す。さらに被験者を3つのグループに分ける。グループ A には、東日本大震災により親を亡くした（被災孤児、被災遺児）の特定の子の写真と彼についての説明が書かれた書類を渡す。グループ B には東日本大震災により親を亡くした子ども（被災孤児、被災遺児）の状況を統計的に説明された書類を渡す。グループ C には（A）と（B）両方見せる。そして、最初に渡した報酬で一体いくら寄付をするのかを実験し、一元配置分散分析を

行った。

## 6. 結果や今後の取り組み

一連のフィールド実験において、「顔のある犠牲者」への寄付と「統計的犠牲者」への寄付とでは相違があることを認識するように人々にプライミングすることは、予想に反する結果になることを示す。個人は「顔のある犠牲者」にはあまり寄付をしないが、かといって、統計的犠牲者への寄付が増えるというわけでもない。つまり、思いやりや寄付は全体的に減るという結果になった。したがって、熟考する時、人々は、顔の見える犠牲者への共感を引き下げるが、統計的犠牲者への共感を生み出すこともしないように思われる。

この論文においては、われわれは、顔のある犠牲者効果について被験者に教示することによって、その効果のバイアスを除去する試みを行った結果を説明する。寄付におけるこのような相違のバイアスを除去することは重要であり、なぜなら、一人の犠牲者に多額のお金を集中することは非効率だからである。

それは人間が生まれた時から、備わっている二重過程論が寄付への関心をうまくもたらしることができなかったからだ、我々は考える。二重過程論、つまりは感情システムと情動システムをうまく利用すれば、社会はより良い方向へと導くことができるのではないかと考えている。

## 7. 参考文献

- 岩手県「応急仮設住宅（建設分）の入居状況（平成 28 年 9 月 30 日現在）」
- 宮城県「応急仮設住宅（プレハブ住宅）の入居状況（平成 28 年 9 月 30 日現在）」
- 福島県「応急仮設住宅・借上げ住宅・公営住宅の進捗状況（平成 28 年 9 月 30 日時点）」
- 児玉 聡 著  
『功利主義入門—はじめての倫理学』2012 年、p.172-178 ちくま新書
- ダン・アリエリー 著、櫻井 祐子 訳  
『不合理だからすべてがうまくいく行動経済学で「人を動かす」』2010 年 p.346 早川書房
- Schelling, T. C.  
『Problems in Public Expenditure Analysis』(1968)in “The life you save may be your own,” ed. Samuel Chase, Washington D.C. Brookings Institution ,:127-162
- Deborah A. Small ,George Loewenstein ,Paul Slovic  
『Sympathy and Callousness : The impact of deliberative thought on donations to identifiable and statistical victims』
- アダム スミス 著、村井 章子、北川 知子 訳  
『道徳感情論』2014 年 p.57-58 日経 B P 社

## 西日本インカレ事務局への連絡事項

### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。